

# 変化に豊む風物

## カナダの都市と観光地

無辺ともいえるほど広大で、地理的にも民族的にも多様なカナダ。訪れる人にとって、これほど魅力に富む国も少ない。針葉樹林と山と湖、特にロッキーマウンテン脈で知られる西部カナダ、果てしない地平線と未踏の荒野、何千もの湖と河川、そして穀物の海が続く中部平原諸州、フランス系文化のケベック州、鉱物資源、肥沃な土壌に恵まれ、五大湖を南にひかえるオンタリオ州、そして厳しい自然との戦いに培われた伝統的友愛精神にあふれた人々の大西洋岸諸州。今号は、いくつかの名所を紹介しよう。

**バンクーバー** カナダで三番目に大きいバンクーバー市は、太平洋岸での最も重要な港町でもあり、州の財政、商業、工業の中心都市となっている。市は海岸山脈を背景に、プリティッシュ・コロンビアのフィヨルド海岸の最南端にあるバード入江に接している。一七七八年にキヤブテン・クックが沿岸線を航行し、一七七四年と一七九一年にはスペイン人が、そして一七九二年に、この市の名の由来となったキヤブテン・ジョージ・バンクーバーが航行している。一八〇八年には

サイモン・フレイザーがサイモン・フレイザー川河口まで到達した。一八五八年に、このフレイザー川はゴールド・ラッシュでにぎわったが、ヨーロッパ人開拓者が定着したのは一八六二年以後。一八八六年にカナダ太平洋鉄道が完成するといちはやく市制が施かれ、バンクーバーは大発展をとげた。今では、多くの近代高層建築が立ちならび、背景の山々にスカイラインが美しく反映する魅力的な町となった。

● 主なみどころ プラネタリウム、マリタイム博物館、トータムポール公園、新渡戸庭園、スタンレー公園、リブセットインディアン博物館、ガスタウン、チャイナタウン、木こり祭、サケ釣り大会。

**エドモントン** アルバータ州最大の都市、州都エドモントンはカルガリーから北へ二九八キロ離れた北サスカチュワン川沿いにある。州のほぼ真ん中に位置している。ハドソン・ベイ会社は一七九五年に商人や旅行者達の基地として、毛皮取引場であるエドモントン砦を建設した。一八七四年に北西騎馬警察（カナダ騎馬警官隊の前身）がこの地区の住民の保護のために赴任してきた。カナダ太平洋鉄道は一八九一年にはこの地区まで路線を拡張し、一八九八年のクロンダイク（ユークン準州）の金産出がエドモントンの成長の原動力となった。これはエドモントンを供給基地とし、またその後の幻滅した試掘者達の定住の地とした。一九〇五年には、新しくできたアルバータ州の州都となった。第一次世界大戦後、カナダ辺境飛行士が泥炭地、岩山や川を飛び越え、北極圏を股にかけて飛び回り、

同市は北部の航空業務の発展の中心地となった。第二次世界大戦後にエドモントンの南一六キロのレダックで最初の石油が掘り当てられ、それは止むことなく今日にいたるまで拡張し続けている。

カナダの肥沃な農業地域の中央にあつて、エドモントンは穀物、家畜、器具、食糧の集配地であり、かつ西カナダにおける最も重要な鉄道の中心地である。躍動的でありながら、西カナダのゆったりとした雰囲気を持ち、コスモポリタンの（約三十六ほどの民族からなっている）で、広い通りを持った都市計画のモデル都市でもあり、「カナダの原油中心地」、「北への玄関口」、「なつかしのクロンダイク時代のふるさと」などと呼ばれている。



アルバータ州バンフでのボート乗り。

● 主なみどころ クロンダイク祭、ロデオ大会、国際スノーモービル大会、ジャスパー国立公園、開拓村。

プリティッシュ・コロンビア州オクナガン谷の樹氷。



● 主なみどころ オンタリオ・ブレイス

所」を意味する。また、この地は古く一六一五年のフランス人による毛皮取引きによって知られる。最初にここを開発した北部カナダ第一英陸軍のジョン・グレイブズ・シムコは、この地をヨークと名付け、その地名は一八三四年、市として合併されるまで続いた。今やトロントはセント・ローレンス水路の主な湖港になり、加速度的拡大に併う新しい高層建築と古い街路樹の続く通りとが素晴らしい対照をみせている。現代の金融と通商の中心メトロ・トロントは二百七十マイル四方にわたり、世界各地から新しい居住者がやってきていて、国際色豊かな市となっている。トロントはカナダの都市の中でも最もアメリカ的だといわれている。

● 主なみどころ オンタリオ・ブレイス